

## 第四回がん研若手コロキウム開催報告

令和4年7月28日、若手育成の一環として「第四回がん研若手コロキウム」を開催いたしました。本会は学生とポスドクを主役とした研究発表会であり、若手研究者の口頭発表および質疑応答のスキル向上を目的としています。本会の特徴として、学生・ポスドクに質問の優先権を与えたり Best Discusser 賞を設けるなど、若手研究者が積極的に質疑応答に参加できる環境を作っています。今年も学生・ポスドクからレベルの高い研究が発表され、白熱した議論がみられました。

(発表者7名、会場参加者34名、オンライン参加者40名)

### <がん研若手コロキウム特別ルール>

- ・会場には学生・ポスドクのみが集まり、教員はオンラインでの参加に限る。
- ・討論時間の最初の2分間は学生・ポスドクのみが質問できる。
- ・Best Discusser 賞および Best Presenter 賞を参加者の投票で選出する。
- ・Best Discusser 賞の対象者はコロキウムに参加した学生・ポスドクの全員とする。
- ・受賞者はがん研のHPに掲載される。受賞したことをCVに書くのも可。
- ・発表および質疑応答は基本的に英語で行う。

**Best Discusser 賞**には **Huazi Zhang** さんと **Nichole Marcela Rojas Chaverra** さん、**Best Presenter 賞** には **Yuanyuan Zhang** さんが選ばれました。二年連続で女性が独占する結果となりました。

## プログラム

### **4th Ganken Colloquium (July 28, 2022)**

Online / CRI 4F Conference Room

13:00 - 13:10 Opening remarks

#### **Session 1** (Chair: Minoru Terashima)

13:10 - 13:30 Yongwei Jing

13:30 - 13:50 Nichole Marcela Rojas Chaverra

13:50 - 14:10 Atsuya Morita

14:10 - 14:30 Kusuma Suphakhong

14:30 - 14:50 Break

#### **Session 2** (Chair: Susumu Kohno)

14:50 - 15:10 Ryusuke Suzuki

15:10 - 15:30 Yuanyuan Zhang

15:30 - 15:50 Yuming Wang

15:50 - 15:55 Closing remarks

16:00 - 16:10 Awards ceremony

## Photographs



Best Presenter賞に選ばれたYuanyuan Zhangさん。  
授賞式で松本所長より賞金が贈呈されました。



Best Discusser賞の授賞式。受賞者はHuazi Zhangさん（左）とNichole Marcela Rojas Chaverraさん（右）。



## コロキウムを終えて

がん研若手コロキウムの開催も今年で4回目となりました。今回も多くの方の皆様に参加いただき、本研究所の夏の恒例行事として定着しつつあるのではないのでしょうか。このまま若手育成の場として継続・発展させていくことができれば幸いです。

本コロキウムでは、学生・ポスドクが積極的に質疑応答に参加できる環境作りを心掛けており、学生・ポスドクの優先質問時間や Best Discusser 賞などを設けることで質問の動機付けを行っております。それらは部分的には奏功しており、これまでも熱心に質問する学生・ポスドクが現れてコロキウムを盛り上げてくれました。しかしながら、それでも全員が質問するわけではなく、より多くの若手参加者に質問してもらうことが次の課題でした。今回、丁度良い大きさの会場を使用することで若手参加者の全員が質問用マイクの近くの席に座れるようにし、また、開会の挨拶では奮起を促すメッセージを述べさせていただきました。その甲斐あってかは定かではありませんが、今年はより多くの若手が質問に立ってくれたように見受けられました。（それと 관련하여 Best Discusser 賞の得票数もこれまでより分散した結果になりました。）今後もこの傾向が続くように工夫してまいります。若手の皆さんも一人一人が主役である意識を持ち、自発的に質疑応答に参加して欲しいと考えております。また、さらに重要なのは、コロキウムで質問することが本当のゴールではないということです。ここでの経験を活かして学会やシンポジウムなどの他の機会でも積極的に質問するようになってくれば、真の意味で本会を開催する意義があります。

今回の演題数は7題でした。どの演題もレベルが高く、発表者の皆さん、そして彼らを送り出してくださった先生方には深く感謝しております。一方で演題数が年々減少していることに憂慮しております。研究所内の学生・ポスドクの皆さんは一度はコロキウムで発表することを想定し、Best Presenter 賞を獲得することを目標にしてください。そのような心構えであれば普段の研究にも熱が入るのではないのでしょうか。そして、そのような前向きな意識を持つ人間こそが今後のキャリアでも成功していけるのだと思います。

特筆すべきこととして、昨年と今年の2年連続で女性が Best Presenter 賞および Best Discusser 賞を独占する結果となりました。昨今は女性の社会進出の促進が重視されておりますが、公平な評価さえ行われればその達成が十分に可能であると思わせるポテンシャルを本会の参加者の皆さんが示してくれました。

今回、ハイブリッド方式での開催でしたが、研究協力系の皆様のおかげでスムーズに進行させることが出来ました。この場をお借りして御礼申し上げます。また、松本所長、寺島助教、河野助教のお力添えに心より感謝申し上げます。最後に、全ての参加者の皆様、ありがとうございました。

がん進展制御研究所・PI/准教授  
土屋晃介